

地 理 歴 史

1 全般的事項に関する質疑応答

問1 地理歴史科の各科目について、教育課程の編成上、配慮すべきことは何か。

地理歴史科における各科目の履修については、全ての生徒に履修させる科目である「地理総合」を履修した後に、選択科目である「地理探究」を、同じく全ての生徒に履修させる科目である「歴史総合」を履修した後に、選択科目である「日本史探究」、「世界史探究」を履修できるという、地理歴史科の基本的な構造に留意し、各学校で創意工夫して適切に指導計画を作成する必要がある。この趣旨を踏まえ、と、「地理総合」と「地理探究」、又は「歴史総合」と「日本史探究」、「世界史探究」を同一年次で並行的に履修することは不適切である。

問2 地理歴史科における「主体的・対話的で深い学び」の実現をどのように図ればよいか。

「主体的・対話的で深い学び」については、方式化された授業の方法や技術ではなく、授業改善の考え方として捉えることが重要である。これまで言語活動の充実などの形で図られてきた学習活動の改善が、引き続き「社会的な見方・考え方」を働かせる中で、地理歴史科ならではの「問い」として設定され、社会的事象に関わる課題を追究したり解決したりする活動が取り入れられることによって実現することが求められる。

また、調査や諸資料から、社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習活動を重視するとともに、作業的で具体的な体験を伴う学習の充実を図るようにすることが必要である。その際、地図や年表を読んだり作成したり、現代社会の諸課題を捉え、多面的・多角的に考察、構想するに当たっては、関連する各種の統計、年鑑、白書、画像、新聞、読み物、その他の資料の出典などを確認し、その信頼性を踏まえつつ適切に活用したり、観察や調査などの過程と結果を整理し報告書にまとめ、発表したりするなどの活動を取り入れることが求められる。

問3 地理歴史科の各科目における指導計画の作成に当たっては、どのようなことに配慮すればよいか。

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るようにすることが必要である。その際、科目の特質に応じた見方・考え方を働かせ、社会的事象の意味や意義などを考察し、概念などに関する知識を獲得したり、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実を図ることが必要である。

また、地理歴史科の目標を達成するため、公民科などとの関連を図るとともに、地理歴史科に属する科目相互の関連に留意しながら、全体としてのまとまりを工夫し、特定の事項だけに指導が偏らないようにすることが必要である。

2 地理領域科目（地理総合・地理探究）に関する質疑応答

問1 「地理総合」において、大項目「B 国際理解と国際協力」を取り扱う際、どのようなことに留意すればよいか。

大項目Bの中項目「(1) 生活文化の多様性と国際理解」での学習は、国際理解を主なねらいとしており、学習対象はあくまで「世界の人々の特色ある生活文化」であることから、地域情報を一つ一つ取り上げた学習をしてしまうと「地理探究」における大項目Bの中項目「(2) 現代世界の諸地域」と重複してしまうため、厳に留意する必要がある。

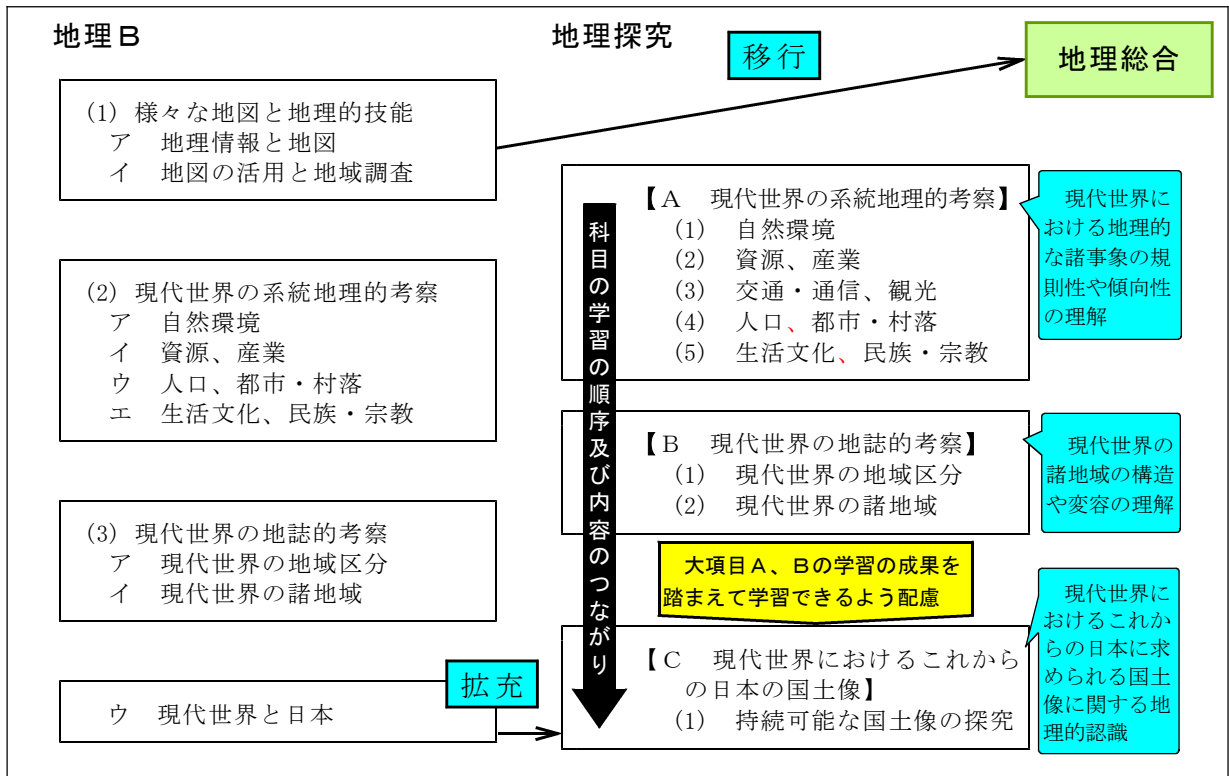
「地理総合」大項目Bの(1)と「地理探究」大項目Bの(2)の比較	
地理総合	地理探究
<p>【B 国際理解と国際協力】</p> <p>(1) 生活文化の多様性と国際理解 自然と社会・経済システムの調和を図った、世界の多様性のある生活文化について理解する。</p>	<p>【B 現代世界の地誌的考察】</p> <p>(2) 現代世界の諸地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地誌的に地域の構造や変容などを考察する。 ・地域ならではの諸課題と地球的課題の関連性を追究する。
<p>【問いの例】</p> <p>「世界各地で様々な食文化が育まれてきたのはなぜだろうか」</p> <p>「私たちの先人たちは、身の回りの環境とどのように接し、どのように守ってきたのだろうか」</p>	<p>【問いの例】</p> <p>「なぜ、ヨーロッパで分裂と統合が見られるのだろうか」</p> <p>「なぜ、インドは急激な経済成長を遂げているのだろうか」</p>

問2 「地理探究」の内容構成は、どのようになったのか。

「地理探究」は、必修科目である「地理総合」の学習によって身に付けた資質・能力を基に、系統地理的な考察、地誌的な考察によって習得した知識や概念を活用して、現代世界に求められるこれからの日本の国土像を探究する科目として、今回の改訂において新たに設置された。

「地理探究」については、「地理総合」の学習を前提に、系統地理的学習、地誌的学習を行う各大項目の学習によって地理学の体系や成果を踏まえた上で、最後に我が国の地理的な諸課題を探究する大項目を設けて科目のまとめとする構成となっている。このことから、「1 全般的事項に関する質疑応答」で述べたとおり、「地理総合」と「地理探究」の履修順序に留意するとともに、大項目A及びBで学習が終了しないよう適切に年間指導計画を作成する必要がある。

現行の「地理B」と比較して、「地理探究」の内容構成を示すと、次のとおりである。



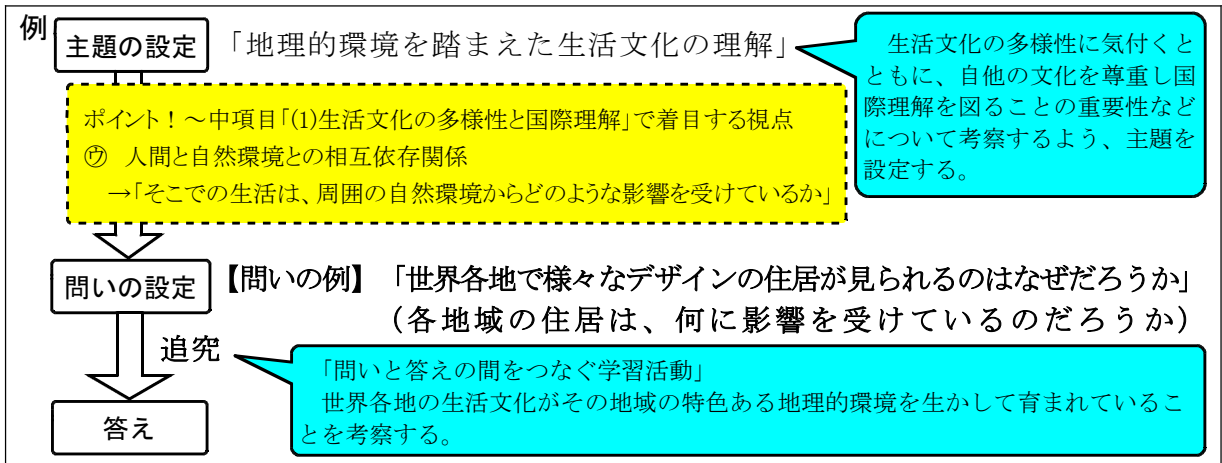
問3 地理領域科目における、「主題」や「問い」を設定し、追究したり解決したりする学習を、どのように展開すればよいか。

「地理総合」及び「地理探究」において、「社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動」を展開するためには、社会的事象の地理的な見方・考え方に根ざした追究の視点とそれを生かして解決すべき課題（問い）を設定する活動が不可欠である。例えば、「地理総合」における大項目「B 国際理解と国際協力」の中項目「(1) 生活文化の多様性と国際理解」での学習活動の例は、次のとおりである。

【参考】

社会的事象を「地理に関わる事象」として捉える際の、社会に見られる課題を「地理的な課題」として考察する際の視点

- ㊦ 位置や分布
- ㊧ 場所
- ㊨ 人間と自然環境との相互依存関係
- ㊩ 空間的相互依存作用
- ㊪ 地域



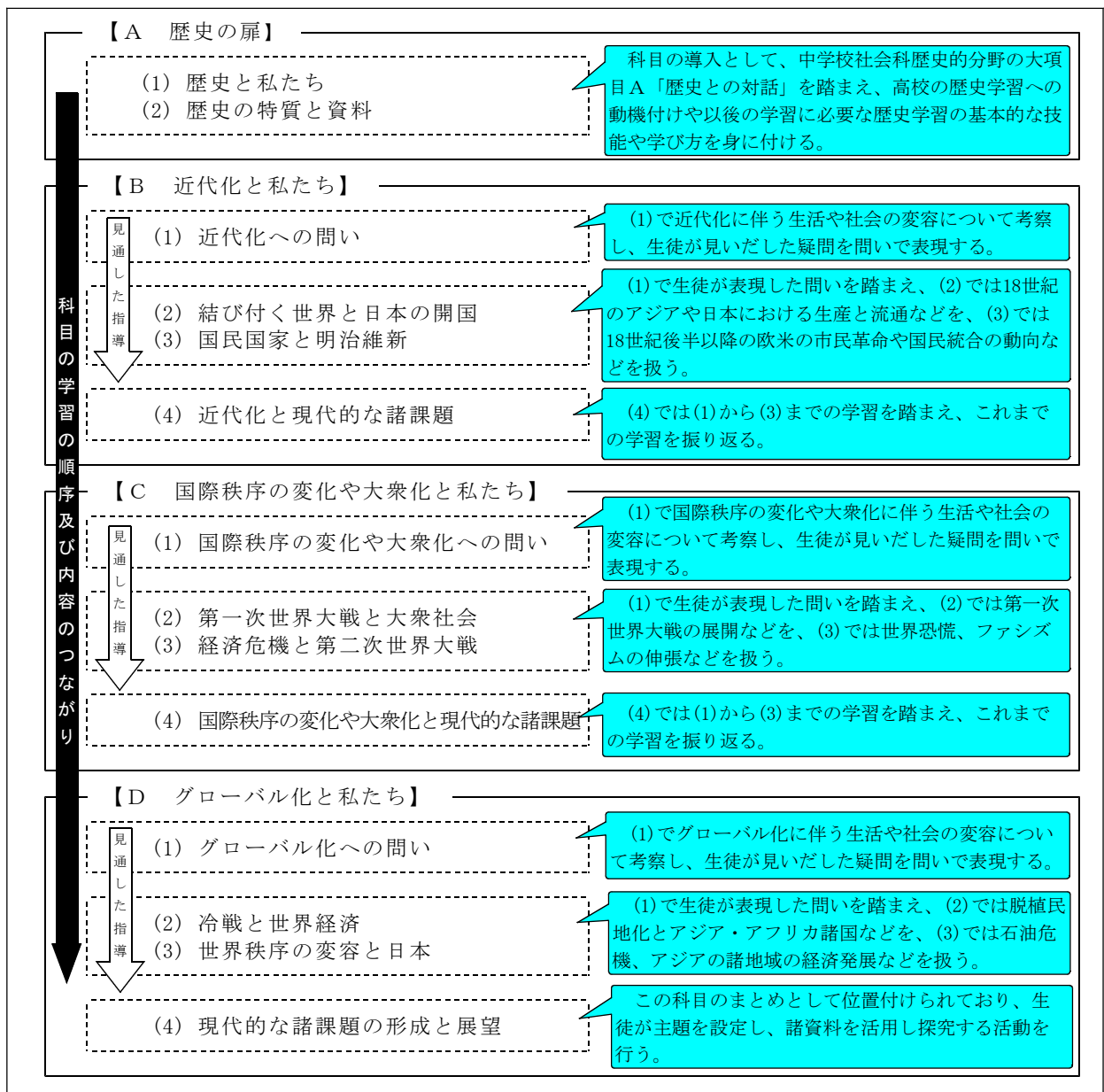
各校においては、生徒や学校などの実態を踏まえて適切な「主題」とそれに基づく「問い」を立て、それらを中心に構成した学習活動の実施が求められる。

3 歴史領域科目（歴史総合・日本史探究・世界史探究）に関する質疑応答

問1 「歴史総合」の内容構成は、どのようになったのか。

「歴史総合」は、近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中における日本を広く相互的な視野から捉え、資料を活用しながら歴史の学び方を習得し、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察、構想する科目として、今回の改訂において新たに設置された。

「歴史総合」の内容構成を示すと、次のとおりである。



なお、大項目A、B、C及びDについては、この順序で取り扱うとともに、学習の導入時からこの科目全体を見通して計画的に学習を進めることが大切である。

問2 「歴史総合」における、「資料を活用し、歴史の学び方を習得する学習」とは、どのような学習活動なのか。

歴史領域科目である「歴史総合」、「日本史探究」及び「世界史探究」のいずれにおいても、ほぼ全般にわたり、資料を活用した学習の充実を図ることとしている。

特に、「歴史総合」では、大項目Aの中項目「(2) 歴史の特質と資料」において、資料に基づいて歴史が叙述されていることの理解とともに、その特性や作成の背景などを含めた資料の吟味の大切さなど、資料を扱う際の留意点などに気付くようにし、その上で、大項目B、C及びDの中項目(1)で、生徒が資料を活用して「問い」を表現し、中項目(2)及び(3)で、資料を活用して事象を多面的・多角的に考察し、中項目(4)では現代的な諸課題との関係について、資料を活用して考察したり構想したりする学習が展開される。

このように生徒が資料を活用し考察する学習を繰り返すことで、それに関わる技能の定着を図るとともに、内容の確かな理解に至るといふ、歴史の学び方を習得する学習が求められている。

問3 歴史領域科目における、生徒が「問いを表現する学習」とは、どのような学習活動なのか。

歴史領域科目において、「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を働かせることができるような、適切な「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開が必要である。

生徒が「問いを表現する」とは、学習内容への見通しをもたせるため、資料から、生徒が情報を読み取ったりまとめたり、複数の資料を比較したり関連付けたりすることにより、興味・関心をもったこと、疑問に思ったこと、追究したいことを見いだす学習活動を意味している。

教師は、生徒が表現した「問い」を、その後の学習の過程において深化させたり、新たな課題（問い）を見いだしたりするなどして、生徒の歴史学習に対する関心を高め、課題意識を醸成し、新たな学びに向かう姿勢を育んでいくことが重要である。

なお、「日本史探究」における「時代を通観する問い」とは、前の時代からの変化と新たな時代に成立した社会との関係や、その変化が時代を通じて定着していく理由や条件などを考察するために、生徒自身が設定する「問い」である。時代の転換の理解を踏まえて、その後の時代の特色と歴史の展開との関係の考察に向かうための学習の見通しを表した問いを示している。

4 新学習指導要領を踏まえた現行学習指導要領における実践

「問い」を設定し、「社会的な見方・考え方」を働かせ、思考力、判断力、表現力等を育成するとともに、ICTを活用して「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す実践例を示す。

【世界史 Aにおける取組例】

<単元の指導計画例>

単元名	地球社会への歩みと課題（6時間）			
単元の目標	1970年代以降の市場経済のグローバル化、冷戦の終結、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、地球社会への歩みと地球規模で深刻化する課題について考察する。			
	【単元を中心となる問い】 グローバル化の進展は、私たちの社会生活にどのような変化と影響をもたらしたのだろうか。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所）参照のこと			

	問いと学習内容
第1次	<p>【問い】 1970年代の危機は現代の社会にどのような影響をもたらしたのだろうか。</p> <p>【学習内容】 1970年代のドル危機や為替の変動相場制への移行、二度の石油危機が現代の社会に与えた影響について仮説を立てる。</p>
第4次	<p>【問い】 各地の地域紛争には、どのような共通点や相違点があるだろうか。</p> <p>【学習内容】 世界各地で起きている地域紛争の背景や現状を調べ、調べた内容をグループ内で比較し、それぞれの共通点や相違点について考察する。</p>
第5次	<p>【問い】 知識基盤社会は私たちの生活にどのような影響をもたらしたのだろうか。</p> <p>【学習内容】 科学技術の進歩や情報化が、世界の人々や私たちの社会生活に与えた影響について多面的・多角的に考察する。</p>
第6次	<p>【問い】 なぜ、地球環境問題の解決は容易ではないのだろうか。</p> <p>【学習内容】 地球環境問題の背景には様々な政治的・経済的課題があることを理解し、どのように解決したらよいか討論する。</p>

主体的な学びの視点
 学習課題を把握し解決への見通しをもつ。

対話的な学びの視点
 調べまとめた内容や互いの考えを比較する。

主体的な学びの視点
 学んだことを自分と結び付ける。

深い学びの視点
 歴史的な見方・考え方をを用いて自分の考えを形成する。

<第4次の指導案（ICTの活用実践）の例>

1 本時の目標 世界各地で起きている地域紛争の背景や現状を調べ、調べた内容を比較することにより、地域紛争の共通点や相違点を考察する。		
2 本時の展開		
過程	学習内容	生徒の学習活動
導入 (5分)	○本時の学習内容と課題 (問い) の確認	・世界地図を参照し、地域紛争の分布から読み取ることができることや、地域紛争の原因について仮説を立てる。 (ペアワーク)
	【問い】 各地の地域紛争には、どのような共通点や相違点があるだろうか。	
展開 (40分)	○地域紛争の背景や現状について (個人による調査、グループによるジグソー法) ○各地の地域紛争の共通点と相違点について	・グループ内で役割を分担し、地域紛争の背景や現状について、インターネットを活用し諸資料を収集する。 ・収集した諸資料をプレゼンテーションソフトを活用しまとめ、グループ内で発表し合う。 ・グループ内で共有した内容に基づき、世界各地の地域紛争を比較して、どのような共通点や相違点が見いだせるか考察する。
まとめ (5分)	○地域紛争の解決に向けて (振り返り)	・国連平和維持活動 (PKO) などの取組を理解し、地域紛争の解決に向けて各自が意見をまとめ、表現する。

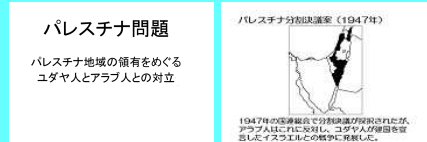
<ICTを活用した学習活動のポイント>

○デジタル教材や学習課題等の提示
生徒が主体的に学習に取り組めるよう、導入で教師が写真・絵画・地図などの視覚資料を画像に示すなどして、生徒の興味・関心を高めるとともに、本時の課題 (問い) を視覚的に提示することで、生徒の思考を促す。

○インターネットを活用した諸資料の収集
コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して、目的に応じた様々な情報を収集する。その際、資料の表題、出典、年代、作成者などを確認し、その信頼性を踏まえて情報を集める。



○プレゼンテーションソフトを活用したまとめ
調べた内容を効果的な形式を用いて主題に沿って、レイアウトを工夫してまとめたりする。







○タブレット端末を活用した発表・話し合い
タブレット端末を活用し、個人でまとめた内容を共有する。また、グループで複数の意見や考えを議論して整理する。



【地理Aにおける取組例】

＜単元の指導計画例＞

単元名	自然環境と防災（5時間）			
単元の目標	・地形図及びGISの活用やフィールドワークを通して、防災に関わる地域の地理的環境について、情報を収集する技能を身に付ける。 ・生活圏で想定される自然災害についての認識を深め、緊急の場合の適切な行動を具体的に考える。 【単元を中心となる問い】 災害から身を守るためにどのような情報を読み取ればよいのだろうか。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所）参照のこと			

	問いと学習内容	主体的な学びの視点
第1次	【問い】土地利用図から「災害から身を守ること」を読みとることはできるのだろうか。 【学習内容】 ・生徒の生活圏の地形図を基にして、主題図(土地利用図)を作成する。 ・作成した主題図から「どこにどのようなものが広がっているのか」といった、生活圏における空間的な広がりを把握する。	 地形図では読み取りにくいことがあることに気付かせ、GISの活用に向かわせる活動
第2次	【問い】私たちの生活圏では、どのような災害が想定されるのだろうか。 【学習内容】 ・Web上の地理院地図の操作を通じて、地形図では読み取りにくい情報をグループ内で収集する。	 対話的な学びの視点 GISの有用性に気付かせる活動
第3次	【問い】GISでは読み取りにくい情報とは何だろうか。 【学習内容】 ・生活圏のフィールドワークを通して、地形図及びGISでは収集できなかった情報を、視認により把握していく。	 主体的な学びの視点 学んだことを自分と結び付ける。
第4次	【問い】私たちの生活圏では、自然災害に対して、どのような備えが必要なのだろうか。 【学習内容】 ・3種類の活動(土地利用図の作成、GISの使用、フィールドワーク)で収集した情報を整理し、予想される災害を考察する。 ・災害発生時に、生活圏はどうなるのか、どのように行動すればよいのかを考察する。	 深い学びの視点 調査の結果を整理し、単元を中心となる問いの答えにたどり着く活動

＜第3次の指導案（ICTの活用実践）の例＞

1 本時の目標	Web上の地理院地図の操作を通して、GISの有用性に気付くとともに、生活圏で想定される災害と、その場所の地形との関連性を考察する。	
2 本時の展開	過程	学習内容
導入 (5分)	○本時の学習内容の確認 ○GISについて	・教師の説明を聞き、Web上のGISで何ができるのかを理解する。 【問い】私たちの生活圏では、どのような災害が想定されるのだろうか。
展開 (40分)	○地理院地図の操作 画面上で地域を入力し、「機能」-「ツール」から「2画面表示」を選択。さらに「情報」から「起伏を示した地図」-「陰影起伏図」を選択。	・地形図と陰影起伏図を2画面表示し、海岸段丘を読み取る。 ・3D画像で立体的に海岸段丘を読み取る。 ・2画面表示や3D画像から、発生が想定される災害と、その根拠を考察する。
まとめ (5分)	○本時の整理	・考察した結果とWeb上のGISのメモリットをワークシートに記入する。
生活圏で見られる個別的な事象から、「他地域でも同じように発生しているのではないか」という新たな仮説を設定し、文献やインターネットで情報収集し、仮説を検証させる活動も考えられる。		

＜ICTを活用した学習活動のポイント＞
 利用するウェブサイト：地理院地図
 アドレス 「<https://maps.gsi.go.jp>」

○前時までの地形図や土地利用図を見ながら、GISの特徴を理解させる。

○2画面表示や3D画像は操作方法が容易であるため、様々な単元での活用が可能である。
【上：2画面表示 下：3D画像「地理院地図（網走市）」】




時間的な余裕があれば、1時間程度生徒に自由に操作させ、他のツールを駆使して様々な情報をレイヤリングしていくことで技能を高めることもできる。
 ※レイヤリング：必要な情報を組み合わせていくこと。

Topic

課題の追究や解決に活用できる資料や教材

地理歴史科では、新学習指導要領において、生徒が社会的な見方・考え方を働かせて、調査活動や諸資料から、課題を解決するという目的に合わせて必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けることが求められている。

◆地理歴史科に関する資料や教材などが掲載されているウェブサイト

	地域経済分析システム (RESAS)	産業構造や人口動態、人の流れなどの官民ビッグデータを集約して可視化する地域経済分析システム アドレス「 https://resas.go.jp 」
	地理院地図	地形図、写真、標高、地形分類、災害情報など、国土地理院が捉えた日本の国土の様子を発信するウェブ地図 アドレス「 https://maps.gsi.go.jp 」
	政府統計の総合窓口 (e-Stat)	各府省が公表する統計データを一括にまとめ、統計データの検索や、地図上に表示できる政府統計のポータルサイト アドレス「 https://www.e-stat.go.jp 」
	文化遺産オンライン	国内の美術館・博物館などに収蔵されている文化遺産のデータについて、文化遺産の指定・未指定を問わず広く収集 アドレス「 https://bunka.nii.ac.jp/ 」
	国指定文化財等データベース	国が指定・登録・選定した文化財などの情報を地図や文化財分類ごとに検索したり、文化財の写真や詳細な説明を表示したりすることが可能 アドレス 「 https://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index_pc.html 」
	国立博物館	4つの国立博物館が文化財を保存・展示 ◎東京：日本を中心としたアジア諸地域の文化財 アドレス「 https://www.tnm.jp/ 」 ◎京都：平安時代から江戸時代の京都文化を中心とした文化財 アドレス「 https://www.kyohaku.go.jp/jp/index.html 」 ◎奈良：仏教美術及び奈良を中心とした文化財 アドレス「 https://www.narahaku.go.jp/index.html 」 ◎九州：日本とアジア諸地域との文化交流を中心とした文化財 アドレス「 https://www.kyuhaku.jp/ 」
	国立歴史民俗博物館	歴史と日本人の民俗世界をテーマに、実物資料に加えて精密な複製品や学問的に裏付けられた復元模型などを展示 アドレス「 https://www.rekihaku.ac.jp/index.html 」
	ウポポイ（民族共生象徴空間）	アイヌ文化の復興・創造の拠点であり、「国立アイヌ民族博物館」「国立民族共生公園」「慰霊施設」の主要施設から構成 アドレス「 https://ainu-upopoy.jp/ 」
	アジア歴史資料センター	国の機関が保管する、近現代の日本とアジア近隣諸国などとの関係に関わる歴史資料として重要な公文書及びその他の記録を提供 アドレス「 https://www.jacar.go.jp/ 」